



住みよいまちづくりを目指して、多くの意見・質問をいただきました（豊和地区）

タウンミーティング

結果報告

タウンミーティング「市長と語る会」が6月から7月にかけて開催されました。

今回は、後半に行われた豊和・吉田・椿海・豊栄・須賀地区の質疑応答の要旨（一部）を公開します。なお、会議録は市ホームページに掲載してあります。

住環境の整備

定住促進対策

タウンミーティングで皆さんの意見をお聞きし、これから立ち上げる新生匠磋戦略会議の土台にしたいと考えています。各地区で「人口減・若い層が少くない」という問題提起をいただき、人口対策は待った無しと感じています。とにかく、やれることは何でもやろうというところで、既に市役所の中にストップ・ザ・人口減少プロジェクトを計画中です。内容は、人口減にストップをかけるべく、若手職員でプロジェクトチームを作り、若い人の意見ややり方を出してもらって、行動を起こしていこうというもので

す。いずれにしても、若い層が住み着いてくれないければ、人口減には歯止めが掛けられないし、そのためには、働く場所・子育ての環境を整えていかなければならないと考えています。

小学校の統廃合

全国的に子どもの数が減少し、本市も同じように減少しています。その中で特に減少したのが飯高小学校です。1年生が0人、2年生が2人、6年生が女の子3人という状況で、地域で話し合った結果、統合しようということになり、統合先も地区民の希望通り、八日市場小ということになりました。

教育委員会としては、児童の発達や学習環境を最優先に考え、地区民の理解が得られれば統合を検討するという方針です。ただ学校が無くなるということとは、地域のコミュニティの核がなくなるといふことなので、簡単にはいかなのが現状です。

統合の問題が出てきたときにまたその地区の皆さんと話し合いをして、もし統合するとなれば、統合先はどこにする

るかというのも、地区の皆さんの考えを伺いながら進めていきたいと思っています。

消防団の定員確保

どこの消防団でも団員の確保に苦労しているのが現状で、昔のように自営をやりながら消防団活動をしていくという余裕がない時代になってきています。

本市では消防団の再編にあたって、2つの部を1つの消防機庫にし、車両をまとめ、いざというときには集まった団員がどちらの車両でも出動できるように体制にするなど工夫をしています。

平成7年の阪神淡路大震災の経験談によると、地元の被災を真っ先に救援できたのは、地元の消防団やボランティアの人だそうです。大災害の時に住民の生命と安全を守った実績からいくと、なかなか定数を減らせないのが現状です。

合併処理浄化槽の

設置促進

本市の場合、公共下水道への対応がなかなか出来ないの、水を浄化するという目的

で合併浄化槽の設置促進に一生涯懸念取り組んでいるところ。単独浄化槽から合併浄化槽にする方法と、汲み取り式から合併浄化槽にする方法があり、どちらも補助金の対象となりますので、検討いただきたいと思っています。

中学生・高校生の

防犯・安全対策

小学生については、学校だけではやりきれないので、地域や保護者に協力してもらうボランティア制度を作って対応しています。しかし、中高生のバス停から自宅までの防犯については、対応しきれないのが現状です。

現在、スクールガード制度というのがあり、県から本市に1名派遣していただき、日中、幼稚園や小学校を見回っていたりしていますが、まだまだ少ないというのが現状です。今後の課題として検討し、対策に取り組んでいきます。

JT跡地の利用

JT跡地については、商工会に活用策について検討を依頼しましたが断念されたところ

◆地区別開催結果

地区名	開催日	会場	参加者
中央	6月1日	匝瑳市商工会館	101人
野田	6月21日	野栄総合支所	36人
栄	6月23日	栄小学校	32人
飯高	6月25日	旧飯高小学校	28人
匝瑳	6月29日	匝瑳小学校	45人
共興	7月1日	共興小学校	31人
平和	7月2日	平和小学校	42人
豊和	7月13日	豊和小学校	41人
吉田	7月15日	吉田小学校	51人
椿海	7月16日	椿海小学校	22人
豊栄	7月21日	豊栄小学校	27人
須賀	7月22日	須賀小学校	24人
計			480人

です。それを受けて民間活力を活用しての商業施設誘致というところで、公募もしましたが、土地の形が悪いとか、用途区域の関係で大半が住居地域という問題などがあり、現状利活用の目処が立っていない状況です。このタウンミーティングや、今後設置していく新生匠瑳戦略会議でご意見をいただき、検討していきます。

市民病院の運営

市民病院は大変厳しい状況です。県の医療再生計画の中で、地域医療圏としての市民病院の役割は、「2次救急の施設」、「いつでも手術のできる対応」とされています。しかし、現状の市民病院では到底対応しきれません。どこの

自治体病院でも医師不足になっているのが実態で、市民病院も一時黒字になっていましたが、常勤医師が減り、今は12人という少ない医師数で運営し、医師の確保が困難という状況です。今後、将来市民病院がどうあるべきか、というようなアンケートを実施し、その結果をもとに、将来の匝瑳市民病院を検討していきたいと考えています。

八日市場駅南側開発

駅の南口から工業団地に向かう道路については、大利根用水のところまでは農業振興地域から除外されていますが、それから先は道路の脇でも農業振興地域では住宅建設等

が制限されますので、現在、都市計画マスタープランの作成を進めている中で、南北に市街地から海岸方面に向かう県道や、国道296号の延伸道路の脇25mくらいは何とか農業振興地域から外してもらおうと相談しているところですが、現在、将来に向けて開発が出来るようにするための準備を進めています。

青少年健全育成

青少年の健全育成については、とにかく指導者やそういう立場の人に頑張ってもらおうということに尽きると思います。団体間や指導される方々と連携を取り合いながら、青少年の健全育成に取り組んでいきたいと考えています。

現在、最も優先しているのは、児童の生命に直接関わってくる耐震化の問題で、地震の時に校舎がつぶれないということを優先して、全面的に耐震化に取り掛かっています。今年度だけで7校舎がすでに補強工事に入っています。その次に体育館ということになります。今年度は、八日市場小の体育館の改築、次は須賀小の体育館を予定しています。子どもの安全性、危険性を考えると早急に改築しなければならぬと考えています。今後は、お金の問題、児童減少の問題などを総合的に考え、計画的に取り組んでいきます。

銚子連絡道路の延伸問題

市の東小笹、山桑の名前も挙がりましたが、組合で調査を行った結果、3市の中で一番適しているのが銚子市の野尻地区だという結果が出て、銚子市で検討し、現在、野尻地区で調整中です。

東総地区広域ごみ処理施設建設計画

東総地区広域ごみ処理施設については、東総地区広域市町村圏事務組合を構成する銚子、旭、匝瑳の3市で計画しています。3市のごみ処理施設の老朽化やダイオキシンへの対応等の問題があるため、3市で協力してごみ処理施設をつくっていただくというものです。当初、旭市の遊正地区が有力候補でしたが、住民の反対にあって断念。次に匝瑳

銚子連絡道路は県の仕事ということで、市としては県と協力していく立場にあります。県の設計と地元の皆さんのご意見がなかなかうまくすり合わせが出来ないということは存じ上げています。地元としてあの道路はメリットが無いというのには理解できなくはありませんが、大きな目で地域の発展ということを考えていただいで、協力願えればと思っています。

校舎・体育館の耐震補強

学校の校舎や体育館については、地震に対してどのくらいの強度があるのかという耐震関係優先度調査を行いました。その結果を受け、危ないとされたものから順次、詳しい診断を専門家をお願いし、改築に取り組んでいく予定です。

秘書課広報広聴班

☎73・0080